



オゾン層そうにどうして穴あながあいてきたの

オゾン層そうは紫外線しがいせんをさえぎる

オゾンは、酸素原子さんそげんしが3個結びついてできたものです。原子げんしとは、化学的かがくてきな方法ほうほうによって、それ以上分けることのできない、いちばん小さな粒子ちゅうりゅうし（つぶ）です。

高さたかが10～55キロメートルの、大気たいき（空気くうき）中ちゆうには、オゾンひろが広がっています。これをオゾン層そうといいます。

オゾン層そうは、太陽たいようの光ひかりの中なかにふくまれている、有害ゆうがいな紫外線しがいせんを、さえぎる役割やくわりをしています。

フロンガスがオゾン層そうに穴あなをあける

冷蔵庫れいぞうこや、クーラーの冷きやく剤ざいなどに、フロンというガスつかが使われてきました。フロンガスたいきちゆうが大気中ほうしゆつに放出じょうくうされ、上空そうのオゾン層そうまでのぼっていくと、オゾン層そうをこわして、オゾン層そうに穴あなをあけます。

オゾンが、フロンガスによって酸素ガスさんそに変わり、その部分ぶぶんにオゾンがなくなって、穴あながあいたようになってしまいます。オゾン層そうに穴あながあいたのは、このフロンガスげんいんが原因げんいんなのです。

オゾン層そうがこわされると、動物どうぶつや人ひとは、体からだに有害ゆうがいな、紫外線しがいせんをたくさんあびることになります。紫外線しがいせんに長い間ながあたると、皮ふがんあいたになるといわれています。

オゾン層そうがこわされていることが、明らかあきになってから、国際間こくさいかんで協力きょうりよくしあって、フロンガスつかを使わない取り決めとをしています。（監修・国司 真）

